



WATERLOO

La délégation de la ville de Nagakutē



NAGAKUTE

第14回
2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団
報 告 書



長 久 手 市



第14回 2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団



目次

あいさつ 長久手市	市長 吉田 一平	1
第14回2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団	団長 吉田 弘美	2
訪問団員名簿		3
事業の経過		4
行 程		5
訪問団の思い出		13
谷 口 誠 「2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団を引率して」		13
笹 山 実 希 「心こもったおもてなしに感謝」		14
内 田 康 介 「非日常での成長と感動」		15
新 美 健太郎 「遠くて近い」		16
瀧 日 康太郎 「ワートルローで感じたこと」		17
佐 藤 領 馬 「ホストファミリーとの思い出」		18
土 屋 響 「人生が変わる街、ワートルロー」		19
木 村 風 歩 「不快にならない深い思い出」		20
早 川 葉 歌 「とにかく楽しかった！！」		21
青 山 千 寿 「出会えた『キセキ』」		22
小 池 瑞 紀 「Merci beaucoup!!」		23
清 澤 彩 夏 「感 謝」		24
瀧 本 鈴 華 「私の家族」		25
織 間 莉 央 「最高の7日間」		26
加 藤 優 希 「私のもう一つの家族」		27
三 沢 颯 菜 「沢山の思い出と出会いに感謝！」		28
清 水 陽歌里 「未来への一歩」		29
舘 沙也加 「平成最後の夏に学んだこと」		30
杉 山 こ こ 「私の家族」		31
川 合 佑 佳 「貴重な経験」		32
高 橋 は な 「Je l'aime Belgium♡」		33
飯 田 万 喜 「ベルギーの訪問から得たこと」		34
研修報告		35
ホストファミリーとの交流の様子		38
姉妹都市交流のあゆみ		44
Special Thanks		46



あ い さ つ

長久手市とワートルロー市の姉妹都市交流は、今年で26年目を迎えます。昨年、記念すべき25周年には、これまでの友好の証と今後のさらなる発展を願って両市がお祝いのビデオを撮影し、市民の笑顔がお互いのまちへ届けられました。25年間をかけて深められてきた両市民の交流を喜ぶまちの雰囲気が見える形となったこの機会は、大変素晴らしいことです。

今回の派遣は5年ぶりとなり、その間、日本やヨーロッパを取り巻く社会情勢も大きな変化が見られました。それらを乗り越え、本市からの訪問団がワートルロー市の素晴らしい歓待を受けたことに、心から感謝します。

訪問団の出発前、団員の皆さんには、現地の豊かな自然や落ち葉を観察してみてくださいとお話ししました。落ち葉は一見ごみかもしれませんが、ある生き物にとっては有用なものとなるように、物事には様々なとらえ方があることを自然は気づかせてくれたことでしょう。さらに、歴史も文化も異なる土地で、現地のくらしを身をもって体感し、相手を理解しようとした体験は、これまで気づかなかった新たな物事のとらえ方を知るきっかけとなったと思います。

若い訪問団のみなさんがこれから社会で活躍し、様々な人々と支え合いながら共に生きていくうえで、多様な価値観を認めて受け入れることは、欠かせない力だと思います。今回の派遣を通じて、自分の中に生まれた新しい価値観を大切に育て、広めていくことで、これからも姉妹都市交流の成果を最大限に発揮していくことができるでしょう。

今回の派遣にあたっては、訪問団のOBが研修に赴き意見交換を行ったり、市内大学生・留学生がフランス語を指導したり、長久手市国際交流協会のボランティアが交流会を開催したりなど、それぞれ担当してくれました。また、帰国報告会は、訪問団員自らが企画・運営を行いました。これまで姉妹都市交流をきっかけに醸成されてきた地域の力が結集した形だと思います。

このように、これからも多くの出会いを大切にし、着実に両市の市民同士の交流を深め、両市が更に発展していくことを願っています。

2018年12月

長久手市長

吉 田 一 平



2018年姉妹都市友好親善訪問団事業を終えて

姉妹都市友好親善訪問団長としての下命をいただいた時には、ベルギー国内でテロ事件が発生するなど、事業の実施が懸念されていました。しかも、今夏の猛暑による異常気象の影響を受け、連日のように発生する台風の接近で、無事に予定どおり出発できるのか、大変気をもみました。

ところが、いざ、訪問団一行がベルギー王国ワテルロー市に向けて出発すると天気が安定し、長旅の疲れも忘れるほど全員が笑顔で、ワテルロー市の心温まる歓迎を受けることができました。ワテルロー市には午後6時頃に到着しましたが、日はまだ高く、秋を感じる気配の中、市長を始め市役所関係者、ホストファミリーなど大勢の皆様の歓迎とともに、突然登場した市民楽団による演奏に迎えられ、初日からこの上ない感動に浸りました。

さて、この青少年訪問団事業は、1994年に始まり今回で11回を数え、私も以前に事務を所管していた時には訪問団を送り出し、ワテルロー市から訪問団を迎え入れた経験がありました。しかし、実際に訪問団として姉妹都市を訪問し、友好親善の使命を果たせるのか。また、長年の交流で培われた相互の関係を更に向上させていくことができるのか、という重圧を感じていました。しかし、それは私だけの取り越し苦労だったようで、団員は臆することなく、対面式、歓迎会、さよならパーティーなど様々な公式行事で、皆が堂々とスピーチし、日本の伝統文化や長久手市の魅力を紹介するなど、それぞれの役割を十分に発揮し、ワテルロー市の皆さんと親睦を図りながら和やかなひとときを過ごすことができました。

ワテルロー市は、首都ブリュッセル市から1本の街道で結ばれ、長久手市とほぼ同様な面積でありながら、緑豊かな林野や農地と住宅地とが整然と分けられた高低差の少ない街並みです。人口は3万人と本市より少ないながらも、中心地のメインの街道沿いには花で飾られた賑わいのある商店街があり、歴史に育まれながら活気に満ち溢れています。私は今回の訪問で初めて双方の街が古戦場を擁する姉妹都市に相応しいまちであることを認識しました。

このたび、訪問団として6日間をワテルロー市で滞在する中で、長久手市との20年余に及ぶ交流が創り上げたものは、今後も、青少年を中心とした交流事業を継続して実施していくことで、次の世代に引き継がれていくものと改めて感じたしだいです。

最後に、引率3人と団員20人では、わずかばかりの親善でありましたが、本市とワテルロー市が友好の輪を広げ、来年度にも訪問団を受け入れる関係を築けたものと思います。このような機会をいただき、無事、予定を遂行できましたことに心から感謝を申し上げます。

2018年12月

第14回2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団 団長
長久手市くらし文化部危機管理監

吉 田 弘 美

▶訪問団員名簿

	氏 名	所 属	
団 長	吉 田 弘 美	長久手市くらし文化部危機管理監	
引 率	谷 口 誠	長久手市教育委員会教育総務課指導主事	
引 率	笹 山 実 希	長久手市くらし文化部たつせがある課主事	
班 名	氏 名	学 校	学 年
1 班	内 田 康 介	高 等 学 校	2
	瀧 本 鈴 華	高 等 学 校	1
	木 村 風 歩	中 学 校	2
	杉 山 こ こ	中 学 校	2
2 班	佐 藤 領 馬	高 等 学 校	1
	小 池 瑞 紀	高 等 学 校	2
	清 澤 彩 夏	中 学 校	2
	新 美 健 太 郎	中 学 校	2
3 班	土 屋 響	高 等 学 校	1
	川 合 佑 佳	中 学 校	3
	瀧 日 康 太 郎	中 学 校	2
	加 藤 優 希	中 学 校	1
4 班	青 山 千 寿	中 学 校	3
	織 間 莉 央	高 等 学 校	1
	高 橋 は な	高 等 学 校	1
	清 水 陽 歌 里	中 学 校	2
5 班	飯 田 万 喜	高 等 学 校	1
	舘 沙 也 加	中 学 校	3
	三 沢 颯 菜	中 学 校	2
	早 川 葉 歌	中 学 校	1

▶事業の経過

項 目	日 時	場 所	内 容
訪問団員の募集	5月8日(火) ～21日(月)		
選考会	5月26日(土) 10:00～15:00	市役所会議室棟2F	面接及び作文
オリエンテーション1	6月10日(日) 13:30～15:00	市役所西庁舎研修室	オリエンテーション 集合写真・個人写真撮影
事前研修1	7月1日(日) 13:30～16:30	市役所西庁舎研修室	訪問団員OBとの意見交換会 フランス語レッスン 研修課題及び日本文化紹介内容の検討
事前研修2	7月29日(日) 13:30～16:30	市役所西庁舎研修室	フランス語レッスン 研修課題及び日本文化紹介内容の準備
結団式 オリエンテーション2 事前研修3	8月20日(月) 13:30～16:30	市役所西庁舎研修室	結団式 事前研修成果の発表 オリエンテーション 行程等の最終確認等 事前研修 フランス語レッスン 研修課題及び日本文化紹介内容の確認
出発	8月22日(水)	市役所西庁舎研修室	16:00 市役所出発(セントレアホテル泊)
帰国	8月29日(水)	市役所玄関前	20:30 市役所到着 18:15 中部国際空港到着
市長表敬	8月30日(木)	市長室	団員3名、引率帰国報告
帰国報告準備会1	9月9日(日) 13:30～16:30	市が洞小学校 コンピュータ室	提出物の提出 帰国報告会準備 資料整理
帰国報告準備会2	9月17日(月・祝) 13:30～16:30	市が洞小学校 コンピュータ室	帰国報告会準備
帰国報告会	9月24日(月・祝) 9:30～16:00	市役所西庁舎研修室	9:30 発表リハーサル 13:30 帰国報告会 交流会

▶ 行程

	月日	発着地／滞在地	現地時間	
1	8/22 (水)	長久手市役所 中部国際空港会議室	16:00 18:30	出発式 中部国際空港へ 出発パーティー (セントレアホテル泊)
2	8/23 (木)	中部国際空港 成田空港（乗継） ブリュッセル国際空港 ワテルロー市庁舎	7:40 10:50 15:50 18:00	成田空港へ ブリュッセル国際空港へ ワテルロー市へ 対面式 団員によるスピーチ ホストファミリー宅へ (ホームステイ)
3	8/24 (金)	デュルビュイ ディナン ワテルロー	9:00 19:00	姉妹都市交流プログラム デュルビュイ市内研修 ヴェーヴ城・ディナン見学 ワテルロー市による歓迎パーティー 団員によるスピーチ 日本文化紹介 (書道・二人羽織・盆踊り・折り紙・昔遊びの披露等) (ホームステイ)
4	8/25 (土)	ワテルロー他	終日	ベルギーのくらしを体験 ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
5	8/26 (日)	ワテルロー他	終日	ベルギーのくらしを体験 ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
6	8/27 (月)	ブリュージュ ワテルロー	9:00 20:00	姉妹都市交流プログラム ブリュージュ市内研修 長久手市によるお別れパーティー 団員によるスピーチ、合唱のプレゼント (ホームステイ)
7	8/28 (火)	ワテルロー ワテルロー市庁舎 ブリュッセル国際空港	9:00 21:10	姉妹都市交流プログラム ワークショップ ワテルロー市内研修 ホストファミリーとのお別れ ブリュッセル国際空港へ 成田空港へ (機内泊)
8	8/29 (水)	成田空港（乗継） 中部国際空港 長久手市役所	15:40 18:15 20:30	中部国際空港へ 長久手市役所へ 市役所到着、解散

選考会 5月26日(土)

オリエンテーション 6月10日(日)



事前研修会

7月 1日(日)

7月29日(日)

8月20日(月)



結団式 8月20日（月）



出発式・出発パーティ！ 8月22日（水）



対面式



ホストファミリーとの出会い



デュルビュイ・ヴェーヴ城・ディナン



歓迎パーティ・日本文化紹介



ワートルロー市内



ブリュージュ



お別れパーティー！



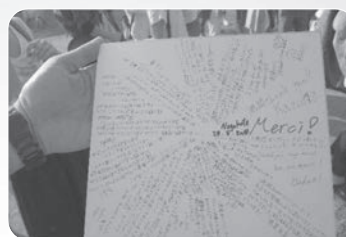
ワークショップと古戦場



お別れ、そして帰国！



帰国・市長表敬訪問



▶訪問団の思い出

2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団を引率して

引率者 長久手市教育委員会教育総務課 指導主事 谷 口 誠



「落ち葉が絵になる街」

結団式の折に、吉田市長がワートルロー市を表現した言葉です。実際に訪問してみると、まさに「落ち葉が絵になる街」そのものでした。街中には石畳の道路や街路樹が整備され、街灯には花の飾りつけ。「ヨーロッパに來たのだ」と実感させられました。

3回の事前研修を通し、訪問団員は昔からの知り合いであるかのような雰囲気を作り上げてきました。それは、帰国報告会まで続き、まさに「2018訪問団ファミリー」でした。私は団員の様子を見守るだけでよく、この訪問を一訪問団員として純粋に堪能することができました。

事前準備では、パーティー等で行う企画を団員自身で考えました。「どんなことをすればホストファミリーは喜んでくれるのだろう」と知恵を出し合い、様々な準備をして現地に乗り込みました。歓迎パーティーでは、折り紙や習字、盆踊りや昔遊びなどの日本ならではの文化を紹介するイベントを準備し、当日は時間も忘れ笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。また、お別れパーティーでは、オリジナルTシャツやキャップをプレゼントをしたり、感謝の気持ちを込めてGreeenの「キセキ」とSuperflyの「愛をこめて花束を」を合唱したりするなどして、長いようで短かった5泊6日のホームステイの最後の夜を盛り上げました。

平日には、デュルビュイ、ブリュージュ、ワートルローの3都市を訪問し、それぞれの街での研修を深めました。

初めに訪れたデュルビュイは、「世界一小さい村」として有名な街で、その谷あいの街には、木を剪定して動物やオブジェにする「トピアリー」が数多くある公園があったり、石造りの重厚な街並みに瀟洒なカフェテラスがあったりしました。団員は初めてのフリータイムに名物「タンポポのジャム」を買ったり、職人さんに名入りの皮製のブレスレットを作ってもらったりと、思い思いの時間を過ごしました。そのあとに訪れたヴェーヴ城では、中世の城郭を実際に見学し、その重厚さと美しさに目を奪われてい

ました。

週明けに訪れたブリュージュでは、昼食にはベルギー名物ムール貝に舌鼓を打ち、その後は伝統工芸のリース織りによる葉作りを行いました。始めは悪戦苦闘をしていましたが、すぐに要領を得て素敵な葉を全員が完成させました。

最終日は、ワートルローの戦いに関する資料館や史跡を訪問しました。ナポレオンが本拠地とした農場では、実際に作戦会議を行った机や武器や鎧が展示されており、団員は食い入るように覗き込んでいました。その後、ワートルローのシンボル、ライオンの丘の226段の階段を登り、ヨーロッパの歴史を変えた戦いの痕跡を眺め感慨にふけるなど、このベルギーへの訪問を振り返る機会となりました。

最後のお別れの場面では、ホストファミリーと記念写真を撮ったり抱き合ったり別れを惜しんだり、家族としての絆を感じる姿が見られました。互いにメールアドレスを交換し合っており、今後も末長い交流が続いていくことを確信しました。

ライオンの丘を後にするとき、1台の旅行者の車が脱輪をしていました。それを見た男性陣が全員で力を合わせ、見事抜け出させることができました。彼らを大きな拍手でバスに迎え入れる女性陣とその後のバスの雰囲気に、この訪問団のすべてが凝縮されていたと感じました。



心こもったおもてなしに感謝

引率者 長久手市くらし文化部たつせがある課 主事 笹山実希



ワートルロー滞在初日、訪れた市内のコンビニのレジで、店員さんが長久手市のことを知っていると話してくれました。25年以上続く交流のまちの人々への浸透が伝わり、とても嬉しい気持ちになりました。

中でも、子どもたちを受け入れてくださった10家庭の温かさが忘れられません。あるファミリーは、初めての海外渡航となる団員の家族が心配しないように、日本にいる団員の家族と毎日メッセージを送り合っている、と教えてくれたり、またあるファミリーは、今後のホームステイプログラムへの要望を聞いたところ、「もっと長くステイしてくれることかな」と笑顔で返してくれたり。そんなご家庭ばかりだったからこそ、団員も、初めて訪れる外国の家庭で、家族の一員となって、ホストファミリーとゼロから心通う関係を築きあげることができたと思います。

もう一つ印象的なのは、ワートルロー市観光局のみなさんに案内してもらった「ワートルローの戦い」

に関する視察です。古戦場の戦いは日本の場合、合戦で活躍した武将にスポットが当てられがちですが、ワートルロー市では「平和の象徴」としてとらえられている点が興味深かったです。ライオンの丘のふもとにある当時の戦いの展示施設のことを、「ここは『博物館』ではなく『記念館（メモリアル）』であることが重要」という説明に、ワートルロー市の人々が過去から未来を想う姿勢を感じました。

ワートルロー市の大変温かいおもてなしに感謝するとともに、今度は私たち訪問団員OBが、自分がしてもらった様に、この親切の輪を広げていく側になって、長久手に新しく来た人に親切にしたり、困っている人に声をかけたり、ホストファミリーの受け入れを試みたり。そうやって、長久手っていいところだなと思ってもらえるきっかけを作っていきたいと思います。

シュロッセル助役が録画したお別れパーティーでの団員の合唱の様子は、Facebookを通じて中継されました。長久手の子どもたちとワートルロー市民との心通う様子が直に伝わる映像は、既に1,000回以上の視聴を記録し、これからもたくさんの人に届けられるでしょう。今後も、素敵な友達ワートルローとのつながりをずっと大切に、つなげていきたいと思っています。

最後になりましたが、20人の最高のメンバーと、一致団結して今回の派遣を全うできたことを、引率としてとても嬉しく思います。今回の派遣に際しご尽力くださったシュロッセル助役をはじめとするワートルロー市関係者のみなさん、保護者の方々に心からお礼申し上げます。



非日常での成長と感動

高等学校2年 内田 康介



ホームステイ先についた当日、不安がとてもありました。5日間たくさん迷惑をかけてしまうのではないか。仲良くなれるのか。そんな不安となにができるのかという思いでホームステイがはじまりました。

ホームステイ先のファミリーは、僕たちに色々な話をしてくれ、色々なことを聞いてくれました。どこに行きたいか、なにをしたいか、なにを食べたいか、初めて会ったとは思えないくらい親切に優しくたくさんのことを教えてくれました。家に着いたときたくさんのおかしを用意してくれたりとあたたかさをととても強く感じました。

また、僕たちの行きたいところに連れて行ってくれてたくさんの説明をしてくれて、日本では見ることのできないもの、感じられないものをたくさん教えてくれました。ときには日本語で話してくれたり、ときには翻訳アプリや写真を使って話してくれて本当に大切にしてもらっているなと思いました。

そして、ホームステイ先で驚き、うれしかったことは日本人の友達ができただけです。家でバーベキューをしたときに日本語の先生の娘さんが来てくれました。ナオという高校1年生のフランス人のお父さんをもつ子です。ベルギーの学校のこと、日本のイメージなどたくさん聞けておもしろ

かったです。さらに次の日の夕方、ナオと僕、土屋君、ナオの友達の日本人の男の子と4人でテニスをしました。向こうで友達もできたし普通の生活のように友達と遊んだりというとてもいい思い出ができました。この思い出は自分のファミリーがいてくれたから、他のファミリーだったら経験できなかったことができたと思います。ナオとは空港に着いたときに電話をしたり、今でもLINEをしたりしています。

カレーライスを作ったときもファミリーはとてもおいしいと言っておかわりをしてくれ、本当に嬉しく、達成感を感じました。

最終日のワートルロー市役所でファミリーと別れるとき、本当の家族になったような気がしました。

とても短い間でたくさんの思い出ができ、たくさん話ができて、異文化に触れることができてとても良い経験になりました。たくさんの人と出会い自分のこれからに活かしていきたいととても強く思いました。

この訪問団で出会った人とこれからも色々な場で関われることを願っています。この団員で本当によかったし、楽しい思い出ができてとてもよかったです。



遠くで近い

中学校2年 新美 健太郎



海外。

訪問団の作文選考の時も同じ書き出しだったことを記憶しています。が、今回の派遣事業を通して、私は「海外」をととても身近に感じるようになりました。

私のホストファミリーの方は、皆さん元気で優しさに溢れていました。家は1年前に建てられた一軒家で、とても広かったです。地下室があり、庭にはサッカーゴールや卓球台がありました。そして何よりシャワーが2つもあるのです。これには佐藤先輩と共に驚きました。

父のロホンさんは、とても明るい方で、いつも笑顔で接していただき、一緒に卓球をしたりして遊びました。

母のフレデリックさんは日本とヨーロッパの手話の違いについても教えてくださいました。また「和食」にも興味があり抹茶の粉を持っていたので、その飲み方を教えてあげました。

兄のロイックは日本の漫画やアニメに興味があり、PS4を持っていました。なので、空き時間には彼のもとへ行って、一緒にアニメを見たりゲームをしたりしました。

弟のエイドリアンは自分と同じ年。11月生まれ同士だからかはわかりませんが、お互いに水泳をやっていて意気投合しました。

猫のティカちゃんは、朝寝しているとドアをがりがりと引っ掻いて起こしてくれました。

ベルギーに着いた時、私は溢れる好奇心が抑え切れないほどの興奮とこれから始まる日々への期待感で溢れていました。ですが同時に、顔がひきつるほどの緊張感にも、襲われていました。ホストファミリーの皆さんは、そんな私を愛情たっぷりのご飯

とペプシマックスで温かく迎えてくださり、その緊張感を優しくほぐしてくださいました。あの時の安心感は、いまでも覚えています。また、仲良くなって絆を深めたいとも強く思いました。

ホストファミリーの皆さんは、私が持って行ったお土産をととても喜んでくださいました。特に100円グッズのおにぎりを作る道具をプレゼントしたときは日本語の「クルクル」「フリフリ」など言葉で楽しみながら、使い方を理解してくれました。

別れの日の朝、Tシャツにサインを頼まれ、ありがとうと感謝をレタリングして書いたところ、喜んで頂き、見送りの時に着て来てくれて嬉しかったです。私のTシャツには家族のサインと猫のティカのイラストを描いてくれました。

ホストファミリーの皆さんは、私の今ある知識を振り絞って作り上げた日本語交じりのめっちゃくちゃな英文を理解しようと努力してくれました。同時に、私もフランス語交じりの英語を理解しようとししました。その結果、私はホストファミリーの皆さんと通じ合い、仲良くなることが出来ました。きっとそれは私たち訪問団の全員に共通して言えることだと思います。そして、今回の派遣事業は大成功を収めることが出来ました。

私と佐藤先輩はホストファミリーにさまざまな場所に連れて行ってもらいました。また、さまざまな体験をさせてくれました。もし初めの1日目から積極的にコミュニケーションを取ろうとしなかったら、こんな経験はさせてもらえなかったでしょう。

毎日が、初体験でした。わたしはこの5日間で多くのことを学び、楽しみました。初日に願った「仲良くなって絆を深める」という目標も達成することができました。ここで培った力を今後の生活に活かし、意味のある5日間にしたいと思います。

ホストファミリーの皆さんは遥か海の向こうに住んでいますが、今ではすぐに会えるような気がするほど、身近に感じられます。

今回の派遣事業は、私に海外への親しみをくれました。

長久手市役所の皆さん、貴重な体験を本当にありがとうございました。

ワテルローで感じたこと

中学校2年 瀧 日 康太郎



この訪問団で言葉が通じなくても、英語があれば思いは通じることを実感しました。対面式の時は緊張してあまり話せませんでしたが、一緒にいるとだんだんホストファミリーの人たちと話すようになっていきました。そして、話す時はだいたい英語でした。ベルギーのほとんどの人達が英語ができてすごいです。フランス語で話そうとしても、「ジュマペール」、「ボンジュール」、「メルシー」ぐらいしかすぐには出てきませんでした。本で調べても分からない言葉もたくさんあり、英語にたよってばかりでした。やはり、世界標準語であり、みんなに伝わり、分かる英語が大事だと痛切に感じました。なおかつ、現地の人が使っているフランス語を、英語と共に話せるようになりたいと思いました。

ファミリーの家で特に驚いたことは、音楽室があったことです。お兄さんのクボタンはピアノを、妹のオリビアはギターをされていて、2人ともとても上手でした。そこにあったピアノは弾いたことないぐらい弾きやすくてびっくりしました。そのピアノでクボタンと連弾をし、お互いにとても楽しく弾くことができ、より親しみが増しました。そして、音楽学校がいくつかあるとファミリーが教えてくれたので、ベルギーは音楽が好きな人が多いのだろーと思いました。

ファミリーに連れられて、朝市に行きました。朝市は、駅の隣で毎週日曜日に開かれるそうです。お店がたくさんあり活気に満ち、すごくいい雰囲気でした。特に印象に残っているのが、加工した肉の店に40人以上の人が並んでいたことです。お肉は、ベルギーでも人気で僕と一緒にだなど感じました。

朝ご飯の時にはパンやチョコなどと、驚くことにご飯と豆腐があり、それらをバイキング形式で食べていました。ファミリーは、日本が好きで、お寺や神社のグッズなどがたくさん飾ってあるほどでした。夜ご飯はキャベツのペースト状の物を包んだパスタや、大きいソーセージができました。キャベツのパスタは、最初何が入っているかわからず、キャベツだと知った時は、すごくびっくりしました。でも、お

いしかったです。そして、最後の夕飯の時にファミリーのみなさんに私たちが作った日本の食べ物を食べてもらうために、お好み焼き、おにぎり、餅、抹茶を作りました。お好み焼きに使おうと思っていたキャベツが加工した千切りしか無いなど、慌てる面もありましたが、無事全ての食べ物が出来上がりました。みんな、全ておいしいと言ってくれて、とてもうれしかったです。そして、食事の後半となってきてお好み焼きが残っており「初めに作ったお好み焼きは失敗した。」という、ファミリー全員から「そんなことはいよ、2つ目のと一緒だよ。」と言ってくれました。そして、「お腹いっぱい」と言っていたけど全て食べてくれたんです！すごくフォローしてもらい、そのあたたかさがうれしかったです。

今回の訪問団で、世界をもっともっと知りたいと思いました。ワテルローでは、ベルギーの文化に触れることができ、ワテルローの戦いがあった場所で学ぶことができました。そして、ファミリーとの短かった生活を忘れず、この先の人生の糧とし、出会いも大切にしていきたいです。

特に、言語は勉強したいと思いました。人と会話ができて、通じることはうれしいことです。まず英語を勉強して、外国の人と交流できるようになりたいです。そしてフランス語は英語に似ていて、ワテルローのみなさんが使っている言葉なので、こちらもこの先習得を目指します。そして将来、仕事を通してたくさんの文化を知りたいです。

ホストファミリーのみなさん、ワテルローのみなさん一生の思い出ができました。本当にありがとうございました。



ホストファミリーとの思い出

高等学校1年 佐藤 領馬



僕は、ワーテルローに着くまで自分でコミュニケーションをとれるか、環境の変化に対応できるか、不安でしたが、対面式でホストファミリーと顔を合わせた瞬間、不安は吹き飛びました。僕の話す英語で話を通じ、ホストファミリーが笑顔だったからです。ホストファミリーには、僕と同じ年のロイック、一緒にステイすることになった新美君と同じ年のアドリアンがいました。ロイックとアドリアンは日本のアニメに興味があり、テレビゲーム(ナルト疾風伝)や卓球をしようと誘ってくれて、すぐに仲良くなりました。

僕はウェルカムパーティーで訪問団の代表としてフランス語でスピーチをすることになっていました。フランス語には、日本語にも英語にもない発音があり難しかったですが、日本での事前研修でフランス人の方や大学生から発音を習い練習したので、本番はホストファミリーに褒めてもらえたほど上手くできました。僕は、パーティーで日本文化を紹介するため、土屋君と「二人羽織」を実演しました。ワーテルローの人たちには面白いのだろうかと心配でしたが、想像以上に笑ってもらえて、会場が大盛り上がりになったので、日本の笑いの文化は万国共通だと実感しました。

ホストファミリーに、ブリュッセル観光、ワリビ遊園地、フリーマーケットへ連れて行ってもらいました。ブリュッセルでは、世界遺産グランプラス広場やオペラ会場の建物などを見て、歴史ある建物と近代的な建物が融合している街並みに魅力を感じま

した。ワリビ遊園地では、ロイックとアドリアンとジェットコースターやボートに乗り、楽しみました。フリーマーケットでは、服や雑貨、おもちゃなど、日本では捨ててしまうようなものまで循環させて使っていたので、エコだなと思いました。

新美くんと調理をしてホストファミリーにお好み焼き、そうめん、もち、抹茶ラテを振る舞いました。ワーテルローでお好み焼きに使う野菜や肉を入手するのに時間がかかりましたが、スーパーへ行く機会を持つことができ、現地の人々の暮らしをより身近に感じました。僕の家には4年前にステイしていたロハもホストファミリーの家に来て、みんなで一緒に食べて、フランス語を教えてもらったり、日本語を教えたりして、充実した時間でした。日本食はどれも好評でした。

ブリュージュとライオンの丘へ行ったことも心に残っています。ブリュージュはまち全体が世界遺産に登録されており、中世の建物がそのまま保存されている風景に感動しました。ライオンの丘に登ったら、ナポレオンが戦った様子を想像できました。

ホストファミリーは僕にとっても親切にしてくれたので、別れの時はさみしくて涙が出ました。ホストファミリーのお母さんは、いつもニコニコしている明るい人でした。お父さんは体育の先生で運動神経が良く、優しい人でした。今度は、ロイックとアドリアンに長久手に来てもらいたいです。



人生が変わる街、ワテルロー

高等学校1年 土 屋 響



このホームステイは僕にとって初の海外経験であり、最も思い出に残るものだと思います。僕は正直英語が苦手で今回のホームステイもとても不安でした。しかしこの体験で僕の英語や外国語に対する見方が180度変わったのです。

ベルギーに着き初めてホストファミリーの方々と会いとても緊張していました。しかし最初の出迎えのすごさに感動し、不安や緊張などはすぐなくなりました。ワテルロー市の方々の素晴らしい行進や演奏、今でも鮮明に覚えています。その演奏の後にホストファミリーの方々と対面式がありこの家族と一緒に一週間過ごすことにおいて迷惑かけないかな、とまた不安に襲われました。しかし娘さんがよく話しかけてきてくださりその不安も一瞬で消えました。そのままホストファミリーの家に行き、まず一つ目の感動がありました。それはとにかく家がでかいことです。それも街にあるすべての家が日本では豪邸と呼ばれるくらい大きい家でした。内装はヨーロッパらしいとても素敵で可愛い家でした。そんな家の夕食はすごく豪華でとてもおいしかったのを覚えています。次の日のデュルビュイはベルギーらしいとても素敵な街並みで、ここでとても日本とは全く違う世界なんだなぁと実感しました。そしてその街の城に圧巻され言葉にできない気持ちに襲われました。この気持ちもいまだに覚えています。ウェルカムパーティーでは、いろいろなホストファミリーと交流を深めながら僕たちは二人羽織を披露しました。ホストファミリーの方々も笑ってくださりとてもいい発表ができたのではないかと思います。そしてワテルローテニスで食べた料理、それも忘れられないほど絶品でした。

次の日はホストファミリーとの時間でショッピングモールへ行きました。ここでも文化の違いがとても出て売っている食品の大きさにびっくりしました。また、ルクセンブルクにも連れて行ってもらい様々な文化を経験することができました。そこで博物館へ行きポリアコフさんに様々なことを教えていただきました。またポリアコフ夫妻は日本語を勉強しており色々なことを分かりやすく教えてくださり英語の勉強、生物学の勉強になりました。このあたりから



僕の英語に対する興味がどんどん出てきて日本でもっと英語を勉強していればもっとコミュニケーションが取れたのにな、とすごい後悔が襲ってきました。その後はブリュッセルに行きしょんべん小僧や王宮を見ることができ、ベルギーの歴史を知るとともに、ポリアコフさんから色々なことを聞くことができとても勉強になりました。またベルギーで一番きれいな街ブリュージュでは、もうすべてが本の中の世界のようにとてもいい気分でした。ここでは日本のガイドさんがついてくださり、とてもわかりやすい説明で楽しく街見学ができました。またこの時に体験したレース作りはベルギーで体験したとてもいい体験でした。

最終日になりようやく家族とも親しくなってきたところに別れの時がやってきました。最終日の朝はとてもつらく朝食時もあまりテンションが上がりませんでした。家から出る時ももうここに帰ってこれないのかと思うと涙が出そうでした。ワテルロー市のライオンの丘をポリアコフさんと登り写真を撮るとさらに悲しくなりました。そして別れの時、行くときには絶対に泣かないと思っていたのにすぐに涙が出てしまいました。帰りのバスに乗りみんなが泣いている中自分がずっと泣いていたらしめしがないと思い気持ちを押し殺し、みんなに慰めの声を掛けましたが本当はとても悲しかったです。しかしこの体験と出会いは僕の人生を大きく変えとても素晴らしい影響をもたらしました。僕は絶対にもう一度ベルギーへ行きます。絶対に。それほどいい経験でした。本当にありがとうございました。

不快にならない深い思い出

中学校2年 木村風歩



「ボンジュール！」

これは謎の旅人フーこと、谷口先生のあいさつです。謎の旅人フーとは中部国際空港のキャラクターの名前で、どうして谷口先生がフーと呼ばれし男となったのかは、ご想像にお任せします。

さて、こんなこともあった「2018年長久手市姉妹都市友好親善訪問団青少年派遣事業」(漢字オンリーになってしまいました笑。以下「訪問団」とします)ですが、深〜い思い出が2つあるので、今日はもったいないから1つ・・・、っていうのは上段からの常談である冗談なので、2つとも記したいと思えます(スマセン)。

まず1つめ。いきなり最後の場面ですが、ホストファミリーとのお別れの時、みんなが泣いていたこと。これは、たった1週間で泣くことのできるほど絆を築き上げた、ということになります。もちろん僕も、ビュービュー泣きましたが、たった1週間でこんなに変わるものだと、自分でもすこぶるぶるぶる驚いていました。この日、僕の心はピュアなものに変わったと、後日しみじみしみ感じることとなりました。初めて会ったとき、僕は「上手く話せるかな、仲良くなれるかな」と思いましたが、そんな心配はどこへやら。とっても親切かつフレンドリーに接してくれました！僕はフランス語どころか英語もできないので、いわゆる(漢字だと「所謂」って書くんだって！)出川イングリッシュ？でいこうと決意しました。その決意は功を奏し、言いたいことが伝わらなかった言葉はありませんでした。それどころか、むこうが日本語を教えてというので、教えてあげました。教えた日本語はというと、「いただ



きます、ごちそうさまでした、私は、〜が好き、彼は、彼女は、車、ねこ、木、ジジィ、ハゲ・・・」本人は本気だと思うのですが、まじめな顔で「私はジジィハゲが好き！彼は木彼女は車！」なんて言われたら、そりゃ笑いますわ。バスの中でみんなで大爆笑。たちまち訪問団のみんなの人気者になりました(ホームスティ先の長女&長男)。まさに芸人！って感じで。いやいや、本人たちは本気なんだよ、って思いました。でも今回の訪問の一番の目標は、「コミュニケーション」。人とコミュニケーションをとることです。なんせ僕は、人と話すのが超苦手(通じ合った人とは話せるけど)なのです。今回の訪問ではこの目標は成功と言えますね！！これからいろいろな人と話し、別れもあるけど出会いもある・・・そう思いながら過ごしていきたいと改めて思いました。でも、今回の訪問を「一生で一番の思い出として、心に刻もう」と「これから別れと出会い」って、今回の訪問を超える思い出ができればどうでしょう？

えー、おそくなりましたが2つ目。(ってゆーか、この作文を読んでいるそこのあなた！絶対2つ目あること忘れていたでしょ！)実はこっち、あんまり楽しくないというか、ジーンとしない思い出なんです。個人的には深〜い思い出のはずなのですが。

2つ目の思い出は、ベルギーの物って、全てがデカイ！というところ。文章の残りも少ないですし、2つほど紹介しましょうか。

1つ目は建物！とにかくデカイ！長久手の人口5万人、ワテルローの人口3万人と、長久手の半分しかないからでしょうか。城も多かったですね。

2つ目は食べ物。チョコレートはもちろん朝ごはんからパンといっしょに。ワッフルもデカすぎる！サラダもステーキも！ポテトも山盛り！ベルギーでの夜食を、1回も完食できませんでした(笑)。

というわけで、僕のベルギー思い出談は以上です。本当に充実した一週間でした。特に大きな事件もなく、本当に楽しかったです。

今日の訪問に協力してくださった皆様、本当にありがとうございました！僕は夏休みの宿題が残っているので失礼します。では！

とにかく楽しかった！！

中学校1年 早川葉歌



ベルギーの街並みは、本当にどこを切り取っても絵になるもので、到着して早々、「ベルギーに来て良かった。」と思いました。

対面式で初めて会った、ホームスティ先のみなさん。フランス語はもちろん、英語すらまともに話すことのできない私にも、ていねいにたくさんのことを伝えてくださり、また私のたどたどしい英語もきちんと最後まで聞いてくださる、そんな優しい方々でした。

1週間程過ごすこととなる家は、とても大きくてきれいで、中にはかわいい犬や猫も。

そんな美しく優しい環境や人に囲まれて過ごした研修の中で、一番感動したのは、ホストファミリーにつれていってもらった、宮殿です。各部屋にシャンデリアが、これでもかという程あって、広くて、キンキラキンで。とにかく、きれいで幻想的なその場所には、言葉を失いました。



他にもたくさんの所につれていってもらいました。例えば遊園地。私は絶叫マシンの類が大の苦手で、乗れるアトラクションはあまり多くなかったけれど、ホストファミリーと過ごせた1日は本当に幸せな一時でした。

ホストファミリーとの思い出以外にも心に残ったのはやっぱり、訪問団の皆と過ごした時間です。今回の訪問で私は最年少だったのですが、周りの先輩方がとても良くしてくれて、事前研修の時点ではあまり話したことのなかった人ともとても仲良くなりました。みんなで冗談を言ったり、写真を



一緒にとったり…。なんだか学校の修学旅行みたいで楽しかったです。

また、ベルギーの食べ物もとても印象に残りました。ベルギーでの朝ご飯はだいたい、いろいろな種類のパンにたくさんのハムやジャムが並んでいて、自分で好きな組み合わせをつくる、というものでした。ほぼ毎食パンが出てくると、そしてそのパンがとても美味しいことにとてもおどろきました。

それから、文化の違いでおどろいたのは、あいさつの時に良くハグやキスをすることです。ホストファミリーには4歳の弟くんがいたのですが、その子にキスしてもらえたときはとてもうれしかったし可愛かったです。

私は今回、英語への苦手意識を無くすために、この交換留学に参加しました。日がたつにつれて、言葉が聞きとれるようになっていき、言葉を伝えるための手段もだんだん分かってきました。得意になったわけではないけれど、言葉の通じない人達に思いを伝える楽しさが分かりました。



出会えた「キセキ」

中学校3年 青山千寿



私は、今回初めてヨーロッパに行って、印象に残ったことや嬉しかったことが五つあります。

一つ目は、最初ワテルロー市に着いたときに、演奏があったことです。バスから降りて、広場に出たときで、ワクワクしていたときだったので、演奏を聞いてさらにワクワクが深まりました。

二つ目は、ホストファミリーとの思い出です。初日は、うまく話せるかどうか、仲良くなれるかなど、不安なことたくさんありましたが対面式で顔をあわせたときに、笑顔で迎えてくれました。また、家には息子のルイとルイの友達のスーが一緒に住んでいて、ペアの陽歌里ちゃんと四人で、テーブルサッカーをしました。二人はテーブルサッカーのコツを教えてくださいまして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

家にはプールとジャグジーもあって、ファミリーとたくさん遊びました。

三つ目は他の子のホストファミリーとも仲良くなれたことです。今回私はベルギーに行ってきたたくさんの人と仲良くなりたい！と思っていたので、パーティーやデュルビュイ、ブリュージュなどでたくさんの写真を撮ったり話したりしました。特にみんなでお互いのフードをひっくり返して「カレボ」「カノボ」と言い合い笑い合ったこともすごく楽しかったです。

四つ目は、市役所の方やホストファミリーが、がんばって日本語を覚えてくれたことです。市役所の方は私たちを見て「よろしくお願いします。」ときれいな日本語で迎えてくれました。私たちの文化を



受け入れてくれているようで、とても嬉しかったです。

さいごは、今回私を除く19人と出会えたことです。特に多くの時間を過ごした子もいるし、そうでなくてもデュルビュイに行くときなど、バスの中でたくさん盛り上がり、とても強い絆ができた気がします。お別れパーティーで歌ったGreenの「キセキ」は、ホストファミリーはもちろんですが、私たち20人にもピッタリだと思います。今回この事業に参加しなければ出会えなかったこの仲間を、これからも連絡を取り合って大切にしていきたいです。

初めてのヨーロッパ旅行でこんなに良い思い出を作らせてもらって、本当に感謝しています。この思い出はこれからも大切な思い出です。そしていつか、またホストファミリーと会いたいです。今度はもっとフランス語で話せるようになって、ファミリーを驚かせたいです。



Merci beaucoup!!

高等学校2年 小池 瑞紀



「ベルギー」という言葉から連想することをどんな事でもいいから5個挙げなさい、という課題が出たとする。みなさんなら、どんな言葉を思い浮かべるだろうか。ニュースで見たEU本部？お店で売ってるベルギーワッフル？ゴディバのチョコ？でもそれらは自分自身で得た情報ではなく、与えられた情報ばかりだ。私は、まずは自分の目でみてみる事が大切であると思った。

ヨーロッパ初上陸の私。着いて最初に感動したのが、ヨーロッパ独特の街並み。レンガ造りの家が建ち並び、赤色のお花が付いた洒落た街路があった。やはり日本の文化とは違う、美しさがあった。

私達のホストファミリーは5人家族で、犬と猫もいた。みんなお茶目でノリノリだ。着いたその日の夜に、ブリュッセルの夜景を見にドライブをしたり、一緒にネイルや泥パックを楽しんだ。15人の大人数でバーベキューをしたり、ショッピングも連れていってくれた。コミュニケーションはほとんど英語になってしまったが、言いたい事が通じて嬉しかった。まだ外国語の習得が未熟であるからといって、モジモジして結局何も喋れなかったり、聞きたいことがあるのに聞けなかったということもあるかもしれない。だが、そんな時こそ、無理にでもボディランゲージなどを用いて話してみることが大切だと思った。

私が一番この研修で気になっていたのは、食事についてだ。朝ご飯は、パン・チョコ・ジャム・フルーツ・チョコレートティーだった。さすがベルギー、毎朝チョコを食べて、1日が始まる。甘く、まろやかで、後味がスッキリして、とても美味しかった。日本の食事と比較してみる。日本では一汁三菜といったように、バランスが良く、ヘルシーなものを好む。なので、日本人が毎日この食事を摂っていると、糖分が多く太りやすくなるかもしれない。さらに、魚介より肉が多かった。



けれど、欧米の人にとっては一般的で、それぞれ違った良い文化だと思った。日本も日本食を基本としているが、最近、欧米化が注目されている。世界には独自の文化がある中、影響し合うのはいいと思うが、自国の文化を大切にすることも必要だと思った。私達は、日本料理を紹介しようと、夜ご飯にお好み焼きと味噌汁を作った。味が気に入ってくれたらしく、「セボン！」と喜んでくれた。そして、お土産に、箸、和傘、文房具など、日本が誇るものを持っていくと珍しいらしく、これもまた喜んでくれた。

そして次は、自然について、健康でいられる環境を作るためには、やはり自然が重要である。まず、

ほとんどの家の周りが全方向が、庭になっていた。さらに都市でも、道の脇には木が植えられていた。朝、二歳上のマノンと鈴華と三人でランニングをしたのだが、気温が寒いこともあってか、すごく空気が澄んでいて美味しかった。

さらに気づいた事として、「ありがとう」について。店を出るときは必ず「メルシー」を言う。大きい店では出来な

いが、毎回店員がどこにいるか少し探して、目を合わせて「ありがとう」を言う。買い物の商品を受け取る時、ドアの譲り合い、物を取ってくれた時。どれも「ありがとう」を言うには当たり前前の状況だが、私達は果たして必ず言っているという確信があるだろうか。ベルギー人は、日本人より多く「ありがとう」を言っているというような気が個人的にした。私達は見習わなければならないと思った。

私は将来、海外に住みたいと考えているので、今回の研修はとても刺激になり、夢へのステップとなった。

私達が「ベルギー」と聞いて思い浮かべられることは、もはや5個や10個ではないはずだ。このように、異国の文化を知り、友好関係を築くことで、また違った世界の見え方を得ることができた。その機会をくれた全ての皆さんに。Merci beaucoup!!

感 謝

中学校2年 清 澤 彩 夏



私は、「ベルギーの歴史や食文化について学び、そしておいきり楽しんで帰ってくること」を目標として訪問団に参加した。

この訪問団に参加して特に印象に残ったことが3つある。

まず、街並みの美しさだ。どこを見渡しても、物語に出てくるようなかわいらしい建物ばかりで見とれてしまった。特にブリュージュだ。川に漂流物でできたクジラがあり、特に驚いた。

次に、気温や湿気だ。日本の夏は凄い湿気が肌にまとわりつくようで、しかもかなりの暑さだ。だが、ベルギーで飛行機から降りた後に外に出てみたら水気の無いさらりとした風が吹いてきて心地良かった。寒いと感じることもあったが、とても過ごしやすかった。

そして、食事の仕方だ。私たち日本人は殆ど屋内で食事をする。だがホストの方によると、ベルギーでは日光に当たりながら食事をするのが好きなんだ、だから屋外で食べることが多いんだと教えてもらった。確かに家でも雨の降っていない時には庭で晩ご飯や、間食を食べた。外の空気を吸いながらで自然を感じることができた。

このようなことを発見できた、気付かせてくれたのはホストの方のおかげだと思う。ゆっくり話して観光地や食文化、建築物について教えてくれて理解が深まった。私の片言の英語にも優しく耳を傾けて聞いてくれたのでとてもうれしかった。帰国するときに市役所で一緒に涙を流していて、本当に私たち

のこと愛してくれているんだと実感して幸せだった。こんなに素敵の方と出会ったことはない。今もメールでやりとりをしている。

人生の中でこんなに良い経験ができるとは思っていなかった。目標を達成することもできた。今からの将来、語学を習得することはもちろん、文化交流や気持ちを通わせあうことは私自身の満足感や高揚感だけでなく国際親善、もっと大きく国際平和につながっていけばいいなと心から願っている。そのため私は、英会話に力を入れようと思う。まず国際交流を深めるために、会話は不可欠だ。会話を通して相手のことを知ることができる。まずは、1つ他国の言語を話せるようになる。次に、また他国の言語にふれてみる。それを繰り返していけば、多くの国の方と交流することが可能になる。そうすれば、お互いのことを理解し合える。その間に笑顔が生まれる。こうして世界平和が成り立つのではないかと私は考えた。小さなことから始めるのはとても大切なのだ。

このように、普段の生活では感じられないことを体験できたのは、6月から私に協力してくれた両親、事前研修や現地で引率をして下さった市の皆様、そしてホストの皆様が私たちを支えていて下さったからだ。このチャンスをいただき本当にありがとうございます。感謝しきれません。このチャンスを無駄にしないよう、多くの人にこの経験を伝えていこうと思う。



私の家族

高等学校1年 瀧本 鈴華



私はこの夏、ベルギーでホームステイ体験をしました。

長い飛行時間の中でも、ホームステイバディに会うのが楽しみで一睡もできませんでした。ベルギーに着いた時は、もうウキウキが止まらなかったです。対面式で会った時は、会えた嬉しさとこれからやっていけるかという不安で胸がいっぱいでした。でもホストマザーが優しく背中をなでてくれて、ホッとしたのを覚えています。ホームステイバディの家族構成は、ホストマザー、ホストファザー、長男のアレクシー、長女のソリン、次女のマノンと犬のヌガー、猫のブルーでした。

対面式も終わり、家に向かうために車に乗りました。日本と全く違う景色に驚きました。道はレンガでつくられていて、家と家の間も広く、どの家にも庭がありました。道路の幅も広くて、右側車線でした。交差点らしきところ（ラウンドアバウト）もあったのですが、そこには信号機がなく、通るたびに他の車とぶつからないかとひやひやしました。

ホームステイ1日目の夕食はホストファザーが作るパンケーキでした。夕食の後にお土産を渡しました。喜んでもらえて嬉しかったのですが、ここでハプニングが。なんと私が鼻血を出してしまったのです。それもなかなか止まらず、ホームステイバディに「大丈夫？」「しんどくない？」「熱はない？」とすごく心配させてしまいました。しばらくしたら鼻血は止まり、夜のドライブにブリュッセルへ行くことにしました。夜のベルギーはとても寒かったです。しかし夜のグラン・プラスはとても美しく輝いていました。日本にはない様々な建造物があり、すごく綺麗でした。

私がベルギーで思ったことは2つあって、1つ目はとにかくご飯が美味しかったことです。お肉やポテト、サラダやドレッシング、特にパンが美味しかったです。パンはどこの国へ行っても美味しいと聞いていたので



すが、本当だと思いました。

2つ目は、日曜日などの休日はお店がいつもよりはやく閉店することです。日本は日曜日が1番お客さんが多いのですが、ベルギーはお店の人もお休みにするためにはやくお店を閉めるそうです。

休日はホームステイバディとお買い物に行きました。ZARAやH&Mなど、日本にもあるお店もありました。靴屋さんにも連れて行ってもらい、日曜日には朝市へ行きました。日本にはあまり見られないチーズがたくさん売られていたり、鶏肉の丸焼も売られていました。チョコレートも買いに行ったりして、たくさんのお土産を買うことができました。

この1週間でたくさんの思い出ができました。ホームステイバディとマニキュアを塗ったり、バックをしながらおしゃべりしたり、一緒にショッピングをしたり、まるで姉妹のように接してくれました。

別れの時は本当に悲しかったです。泣いていたら、ホストマザーが「また来ればいいよ」と言ってくれて、心が温くなりました。バスが発車する時も、ホストマザーは走って最後まで手を振ってくれました。

私はこれからも、ベルギーの事を学び、ベルギーを愛していきたいです。そして、もう一度ベルギーに行きたいです。今回の経験は一生忘れません。本当にお世話になりました。



最高の7日間

高等学校1年 織間 莉央



私は今回、訪問団員としてワートルロー市に行きました。

行く当日の朝、「行く」という実感がないまま飛行機に乗りました。そして、ベルギーについたと同時に緊張してきて「英語はしっかりと話せるのか。」「ホストファミリーと仲良くできるのか。」などとても心配しました。

ホストファミリーと市役所で会った時、とても優しく接してくれました。その日はつかれていたのかすぐに寝られました。

次の日からは、ホストファミリーと楽しく過ごしました。夜ごはんの時、日本について話したりしました。食べた後は、ティヤとマヤ、ここちゃんと4人で折り紙やけん玉をやったりしました。とても興味を持ってくれたのでうれしかったです。

ホストファミリーと交流する日は、ブリュッセルやアトミウムに行きました。

ブリュッセルでは、本場のチョコレートを食べたりしました。また、メールをしていた時、私が行きたいと言ったコスメショップにもつれてってくれました。他にもブリュッセル王宮に行きました。広くて、大きくてとても見ごたえのある場所でした。



次の日は、お家でまったりと過ごしました。屋根裏にあるボードゲーム、Wii はとても楽しかったです。ティヤはとてもボードゲームが強くておどろきました。ティヤ VS 私 & ここちゃん でサッカーのボードゲームをしました。2人で戦ったのに1、2点しかとれず完敗でした。ですが、とても楽しかったです。

お別れの日、私は泣いてしまいました。その時ファミリーは抱きついてくれました。また、「あなたたちは私達の家族です。」と言ってくれました。ほんとは、ずっとベルギーにいたいくらいでした。

ホストマザーであるブリヤ、ホストファザーであるフィリップ。私がずっとほしいと思ってたお姉ちゃんマヤ、妹のティヤ。みんなとても優しく、フレンドリーでほんとうにお世話になりました。

今回、人生初のホームステイに行けて本当に良かったです。

来年は、ワートルローから来てくださるので、「長久手市に、これてよかった。」と思ってくれるようにがんばっていききたいと思います。

私のもう一つの家族

中学校1年 加藤 優希



私が長久手市姉妹都市友好親善訪問団の一員として、ワートルロー市を訪問し、一番言いたいことは、私にはもう一つ家族がいると思うくらいホストファミリーと過ごした時間が忘れられないということです。

ホストファミリーと初めて出会った対面式は、緊張よりもこれから5日間に少し不安がありました。でも、ホストファミリーに会って優しくハグされた時には、緊張も不安もなくなっていました。

私はワートルロー市を訪問する前に、お互いの文化を話し合いたいと思っていました。自分で考えていた以上に言葉が伝わらず、日常生活で使う言葉で精いっぱい、お互いの文化について話し合うことは難しかったです。しかし、翻訳ソフト使ったり、身振り手振りしながら、日本のことを説明したり、ベルギーのことを教えてもらったことは、良い経験となりました。また、食事やトイレなど身近なところで色々な違いを発見したことも楽しかったです。ホストファミリーとの交流の中で、私の片言の英語を受け止めてくれたり、“これを日本語でなんと言うの？”と日本について興味を持ってくれたことが、うれしかったです。

休日にホストファミリーとブリュッセルを観光したり遊園地に行ったりしましたが、一番心に残っていることは、ブリュッセルで小便小僧の像を見に行ったことです。それまで、小便小僧はあまり良いイメージではありませんでしたが、イレヌ（お母さん）が少年が街を火災から救ってくれたことを説明して



くれて、驚いたと同時に見方が変わりました。ホストファミリーと外へ出かけて、初めての経験をたくさんしました。ベルギーでの初めての外食では、フランス語をしゃべりました。挨拶程度でしたが、



さらっと言えたことにとっても楽しくなりました。

土曜日の夕食には、日本から持ってきたそうめんを作りました。嫌いな味だったらどうしようかと思いましたが、“おいしい”と言って食べてくれたことがうれしかったです。とてもたくさん食べてくれるので“無理しなくても大丈夫ですよ”と声を掛けたら、“あなたたちが作ってくれた料理がおいしくて止まりません”と言ってくれて本当にうれしかったです。夢を見ているような毎日に、びっくりすることがたくさんある5日間でした。

私はさよならパーティーで感謝の気持ちを伝える歌の時に泣いてしまったことが、行く前には想像できませんでした。研修の時に前回はさよならパーティーの時の歌で泣いている人が多かったと先生が言っていて、私も泣けるくらい親しくなれるのかと思っていたのですが、この涙がホストファミリーからもらった愛なのかなと思いました。2曲歌いましたが、最後の1曲は泣きすぎて歌が歌えませんでした。

私たちのホストファミリーは忙しかったようで、最後のお別れは朝でした。私は別れるのがさみしくて何度もハグしました。私が泣いているとお姉さんのローラが“大丈夫？ありがとう”と泣きそうになりながら言ってくれてもっと涙が出てきました。日本に帰った後にもメールで連絡を取り合いました。いつかホストファミリーの方が日本に来たときは、私の家に呼びたいと思います。

今年の夏は、人生で二度とない貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今回の派遣で、以前よりももっと長久手市とワートルロー市が身近になったと思います。私はベルギーが大好きになりました。

沢山の思い出と出会いに感謝！

中学校2年 三 沢 颯 菜



私はベルギーに行く前に決めていた事がありました。それは、「誰よりも早くファミリーを見つけて、笑顔で手を振る！」でした。しかし、外のどこを探しても見つけれず……。中に入ると母エンケレイダさんが「アヤカ、ソナ？」と温かい笑顔で声をかけてくれました。

家では可愛い愛犬ブルーに迎えられ、庭でご飯を食べました。

そのお洒落さにも感激でしたが、何より私が驚いたのは家の大きさです。庭には3つの遊具、マスカットの木！そして私達の部屋にはシャワー！

「うらやまし〜！」の連続でした。

事前メールで「英語が苦手です」と伝えていたので、私の急なトラブルにも「no problem」と優しく助けてくれたり、会話も私達に分かるような簡単な単語に変えて話しかけてくださったので、なんとか会話を繋げ楽しい時間を過ごす事が出来ました。

ベルギーと言えばチョコレート！

Neuhaus というとても有名なチョコレート屋さんに連れて行って貰ったのですが、ここは絶対に行きたかったお店だったのですごく嬉しくて試食を食べ過ぎてしまいました。

ベルギーのチョコレートは想像以上の美味しさでした。

そして、私の一番のお気



に入りは、ラ・ウルプというお城がある公園です。「綺麗な建物がある」とだけ言われ見に行くところとは本当に綺麗で、広くて、緑がいっぱいの映画に出てくるような風景。とても素敵な場所でした。

他にはグランプラス（世界文化遺産に登録されている建物）や王宮を見学したのですが、日本では見る事の出来ない、装飾の美しさと細かさはとても素晴らしく、ヨーロッパを感じられる感動的なものでした。

私が一番嬉しかった事は、ファミリーが日本の遊びや食べ物に興味を持ってくれた事です。エマは折り紙、アレックスはけん玉を気に入ったようでした。暇があるとずっとけん玉をしているアレックスの姿はちょっと笑えました。

私達は素麺を作ったのですが、「驚いた！とても美味しい！」と言って沢山食べてくれました。私は素麺と一緒に食べるつもりだった焼き鳥を出すのをすっかり忘れてしまいましたが、ファミリーは喜んでくれたので、作って良かったです。

お祖母ちゃんのお誕生会で集まった従兄弟達も日本のお菓子を沢山食べてくれたので、もっと持ってきたら良かったなと思いました。そして中でも一番盛り上がったのはグミです。コロロの葡萄やスイカの



の形をしたグミはベルギーには無いらしく、喜んでくれるエマの笑顔を見て私は嬉しくなりました。

ファミリー

と過ごしたあっという間の幸せな一週間。沢山の思い出と素晴らしい経験をさせて頂いたワテルロー市と長久手市に感謝の気持ちでいっぱいです。

私はもっと英語やフランス語を勉強して、ベルギーの家族に会いに、そして時間が無くて食べられなかったGODIVAのイチゴチョコを食べる為に必ずベルギーへ戻ります！！

未来への一歩

中学校2年 清水 陽歌里



ホストファミリーとの対面式の前、バスの中で街並みの美しさにみとれながらも、私の英語力でベルギーの方とコミュニケーションがとれるか心配でした。けれど、とても優しい表情で私達をむかえて下さったホストファミリーを見た時、必ず素敵な思い出ができる、そう確信しました。

ホストファミリーの家はとても大きく、プールやジャグジー付きのお風呂、大きなサッカーゲームボードもあり、とても驚きました。私はペアの千寿ちゃん、ホストファミリーの息子さんのルイ君やサム君と一緒にサッカーボードゲームをしました。自分のチームに点が入った時にハイタッチをしたこと、勝って、負けて、を繰り返していくうちに、自然と英語で会話が出来たことには自分でも驚き、とてもうれしかったです。次にまた会えた時たくさん会話ができるように英語頑張ろう！そう思えた瞬間でした。

私はホストファミリーの方にたくさんの観光へ連れて行って頂きました。資料を見ながらお父さんとお母さんが色々と解説をして下さって、単語が一語聞きとれただけでもすごくうれしかったです。そして、そんな大好きなホストファミリーの方と街で食べたアイスクリームやワッフルは本当に絶品でした。

私はとてもラッキーで、お父さんの親せきのお誕生日パーティーにまで参加することができました。私は生まれて初めての海外のちょっとしたパーティーへの参加でした。20人くらいの人が集まって、お父さんの話によると、海外から来る人もいます。まるで、海外映画の中に飛び込んだような気持ちでした。中でも、小さな女の子達と塗り絵をして、裏に英語でお手紙をかいいたらうれしそうにお母さんの所へ持って行って読んでくれたことがうれしかったです。ベルギーの方は、小さな子でも英語を話すこ

とができる子が多く、とても驚きました。また、事前研修で教えて頂いた「あなたの名前は何ですか。」をフランス語で聞いて、答えが返ってきた時の感動はとても大きかったです。

また、お父さんの妹の家に行った時は、お父さんの妹の2人の娘さんとピアノの演奏を聞きあいました。皆とても真剣で、終わった後には歓声の拍手があふれました。音楽はどの国でも必ず通じ合える魔法なんだな、と思い、言葉はなくても通じ合えると改めて感じました。

私は、「言葉の壁を越える」という目標を胸に日本を飛び立ちました。ホストファミリーをはじめとするベルギーの方はとてもあたたかく、ゆっくり私の話を聞いて下さり、そして、たくさん話しかけて下さいました。時には音楽の力を借り、私は言葉の壁を越えて新しい家族ができたと思います。最後の日の夜に、私が「帰りたくない。」と言ったら「また必ず遊びに来てね。」と言って下さった時はとてもうれしく、本当に時間がもっとゆっくり進めばいいのに、と思いました。

お別れの日、私は絶対に泣かない予定でした。でも、バスに乗る直前、ホストファミリーと話していたら急に寂しくなって、小さい子のように声をあげて泣いてしまいました。バスに乗り、ホストファミリーが見えなくなってからも私は泣いていました。そんな時、友達から「いつかまた必ず会えるから、泣いてもしょうがないよ。」と声をかけられ、その言葉が心に響き、私の背中をおしました。その瞬間から私は今、新しい未来への一歩を踏み出しています。

最後に、かけがえのないこの20人、私にチャンスを与えて下さった方々、そして、第2の家族に感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。大好きです。



平成最後の夏に学んだこと

中学校3年 館 沙也加



ずっとずっと待ち望んでいたベルギーへの旅。現地に到着し、バスの中で見た街並みは穏やかで上品でかつ生活感が溢れていて日本とは全く別物の雰囲気でした。ベルギーへ来たんだという興奮とこれからの1週間への期待でドキドキが治まりませんでした。

ホストファミリーとたくさん話すんだと意気込んでいましたが、対面式でどうしても緊張してしまいともに顔を見ることも出来ませんでした。だから初めて目が合った時に優しく微笑んでくれたホストマザーの笑顔は忘れることができません。家に行くと手作りのベルギー料理をふるまってくれました。日本ではなかなか見ないものもあり、とても美味しくて習ったフランス語を使い「セボン」と伝えととても喜んでもらえました。ホストファザーとホストマザーは英語が上手でたくさん話しかけてくれました。自信がなくて自分から話しかけることにためらったりしましたが、大切なのはちょっとした勇氣です。コミュニケーションの楽しさ、自分の英語が伝わるという嬉しさで達成感はとても大きいものでした。ホストシスターで私と同年のエミリーは英語が話せなかったので私との共通言語がありませんでした。でも Google を使ったり表情や手の動きでコミュニケーションをとって、仲を深めることが出来ました。

ホストファミリーはいろんな場所へ私たちを連れて行ってくれました。グランプラス、小便小僧、アトミウムなどは調べてみた写真を見るときとは違って迫力があり、実物を見たんだという感動があり、新たな発見もありました。よく説明を挟んでくれて、聞いていて難しかったけど知っている単語とジュスチャーを見てわかることも多く私が理解しやすいように工夫もしてくれてすごく助かったし、より楽しく観光することができました。理解しよう、会話しようという気持ちを持つことはホストファミリーと



のコミュニケーションにおいて本当に重要なことでした。自分の国の言葉が使えないその不便さが、私を一回り成長させてくれたと思います。

日本のこともたくさん伝えたくて、用意した日本の写真を見せて説明したりちらし寿司を作ったり折り紙を一緒に折ったりしました。気に入ってもらえるか不安だったちらし寿司は美味しそうに食べてもらえて「私も作りたい、どうやって作るの?」とホストマザーが聞いてくれたほどでした。

私のホストファミリーは夜遅くまで起きていて私もつられて夜更かししましたが、眠いと感じることを忘れてしまうぐらい貴重で密度の濃い体験をすることが出来ました。パーティーをやったり BAR に行ったり犬の散歩をしたりしました。ワテルロー市は夜遅くまで出歩くことができる治安の良い素敵な街でした。エミリーとその友達と過ごしたベルギーでの夜はちょっぴり大人な気分になれて楽しかったです。

そんなこんなであっという間に過ぎてしまった5日間。ホストファミリーとのお別れの時は、一緒に過ごした時間が思い出されて涙が止まりませんでした。このベルギーでかけがえない人達と出会えたことに感謝です。

ベルギーの人達は家族や親戚、友達を大切に一緒に過ごせる時間を心から楽しみます。常に私たちのことを気遣ってくれる明るい笑顔溢れる優しい人達です。たくさんの人と接してベルギーの文化に触れて、日本では気づかない価値観や常識の差を見つけることが出来たし考え方の幅が広がりました。この経験によって他の国の人と会話することに自信をつけることが出来たうえ、さらにもっと話したいという意欲をもつことができました。

最後に、私にこの機会を与えてくれた全ての人に感謝したいです。

そしてまたいつかもうひとつの大切な家族が待つベルギーへ行こうと思います。

私の家族

中学校2年 杉山ここ



私はベルギーが大好きです。

おいしい料理があるから。素敵な街並みがあるから。ワッフルやチョコレートが食べれるから。でもやっぱり一番は、大好きな私のファミリーがそこにはいるからです。たった五日間、本当にあっという間な時間だったけど私達は家族になれました。

初めてファミリーと会った日、言葉が通じなくても積極的にと意気込んでいた私の心には不安が顔をのぞかせていました。知識が少なすぎる私の会話はぎこちなくてファミリーも理解するのも大変だったと思います。それでも私の話を聞いてくれてゆっくりだけど通じるようになってきて、なによりあったかいファミリーの笑顔に私はとても安心しました。

ファミリーの家で初めて一緒にごはんを食べた一日目の夜は、聞きたいことも話したいこともたくさんあったのに少し緊張して上手に話せませんでした。だけど、お母さんのプリアがチョコムースとイチゴのデザートをごちそうしてくれたり、日本の折り紙を楽しんだりしていくうちに「ティア！マヤ！」と名前呼び合えるようになれました。使っている言葉が全く違うからこそお互いが一生懸命伝えようとするから心が通じ合うまでに時間はかからないのかなとその時私は気づきました。明日はもっと話そうね、と約束しておやすみの挨拶をしました。

ファミリーと過ごす休日一日目はブリュッセルに連れてってもらいました。日本では見ない街並みに驚きました。建物はかわいくて素敵ではじめて食べた出来たてワッフルはすごくおいしかったです。この日はずっと一緒にいたのに話し足りないくらいでファミリーと仲良くなれました。日本語を教えた

りした時も楽しくて、ファミリーの一番のお気に入り「愛してる」でした。相変わらず下手くそな英語だけど、もっと知りたい分りたいそんな思いのほうが強くて失敗なんか気にせずに、気がつけばいつも自分から話しかけるようになっていました。

休日二日目はファミリーのいつもの休日を過ごしました。一緒にバスケットをしたり、くつろいだり。その中でも屋根裏部屋でやったボードゲームが一番楽しかったです。ティアが強すぎて莉央ちゃんと一緒に戦っても負けちゃうくらいでした。時間を忘れて三人で大笑いしながらやったゲームは夕食のときファミリーに話してまた盛り上がり、笑いっぱなしの一日になりました。

でもそんなファミリーとお別れはすぐにやってきました。帰りのバスに乗る前、ファミリーとの最後の時間で昨日のさよならパーティーで我慢していた涙が次から次へ溢れて止まりませんでした。ティア、マヤ、プリア、フィリップ、私のベルギーのファミリーは本当に私達に優しくしてくれました。今までのことを思い出し、ベルギーとファミリーの全部が愛しくてたまらなかったです。ファミリーは最後に私に「あなたは私達の家族です。」と言ってくれました。こんなに遠く離れた場所で家族だと思ってくれる人がいるなんてとても素敵で嬉しかったです。

おみやげで買ったワッフルよりもチョコよりもいっぱい思い出を私は作ることができました。この大好きな思い出をずっと忘れません。



貴重な経験

中学校3年 川合佑佳



私は、長久手市姉妹都市友好親善訪問団として今回、ホームステイを経験し、たくさんのことを学ぶことができました。今回のホームステイは初めての海外渡航で何もかもが初めてでとてもわくわくしていました。

ベルギーに行く前に、ホストファミリーとメールでやり取りをしていたのですが、私は何より英語が苦手で片言の英語しか話せないでコミュニケーションがとれるかなどと心配でしたが、ベルギーでの対面式でホストファミリーにとっても笑顔で私たちを出迎えて頂き、安心したのと同時にとても楽しみになりました。

ベルギーに着いたとき、まず感じたのは、涼しいことです。朝と夜は日本では冬に着るようなジャケットを着て過ごしました。ホストファミリーは『寒くない?』と聞いてくださって夜どこかへ行くときは上着を貸して頂きました。家にお邪魔させてもらい、私たちが過ごす部屋を選ばせてくれるくらい部屋の数が多く、テラスもありとてもおしゃれな家でした。

対面式の後、ホストファミリーとテラスで夕食をして、私は英語が『話すことができません。』と伝えたら、親切に『心配しないで』と言ってくれて、私を受け入れて頂けたと思います。そして、私が片言の英語やジェスチャーなどを使って話そうとしていると私の話に耳を傾けてくださり、私が言いたかったことに答えて頂きました。言葉が通じなくても、伝えようとする誠意をもって接すれば心が通じ合えるということが分かりました。そんな優しいホストファミリーが大好きです。

ベルギーでの食事はどれもとても美味しく、ホストファミリーの家で食べたトマトを使った料理やウサギのシチュー、チーズは印象的です。ホストファミリーと過ごした2日間は、たくさんの場所に連れて行って頂きました。

まず、ブリュッセルの王宮に連れて行ってくださったり王宮の解説や国王のことを教えて頂きました。王宮の中はきらきら光っていて絵本に出てくるようなお



城でした。王宮の一部屋の天井やシャンデリアが緑色のきれいな虫でできていると聞き驚きましたが、とても印象的でした。王宮から歩いてブリュッセル市街を歩き、日本で言う商店街のようなところも歩きました。

ベルギーではタンタンと言うキャラクターが有名で歩く

たびに見かけ、マンションの壁にタンタンが描かれているのを見ました。市街を歩いていると、日本の鎧や兜をしているマネキンの写真や風車がたくさんついている建物があり驚きましたが、少しうれしかったです。

その日の夜、ホストファミリーと私達、私達のホストファミリーの友達、その友達の訪問団員たちとパーティーをしました。私たち訪問団員と各ホストファミリーの子供でいろんな話をすることが出来てとても楽しい時間でした。そこで驚いたことは、夜の8時から食事をはじめ12時くらいまで会話をしたりして楽しんでいることです。日本はまだ就寝時間なので、日本とは時間の感覚が違って驚きました。次の日の夜は親戚などが集まって食事をする日で、日本語が話せる方がいて会話が出来て楽しかったです。それから、10時くらいにBARに連れて行って下さいました。12時くらいまで会話やビリヤードを楽しみました。ビリヤードはとても難しかったですが、楽しかったです。

ホストファミリーはとても親切でエミリーちゃんはとてもかわいくて日本に帰りたくなかったです。お別れのときは久々に人前で泣いてしまうくらい悲しかったです。最後は又会おうね、と別れました。ベルギーの滞在は充実していて、たくさんの思い出や貴重な経験ができました。この経験を今後の生活に生かしていきたいです。そして、もっと英語を勉強したいと思います。言葉が通じたときとてもうれしかったからです。次にホストファミリーに会える日がきたら今よりも話せるようになっていきたいです。

最後に協力して頂いたすべての方々に心から感謝しています。

Je l'aime Belgium♡

高等学校1年 高橋 は な



「ベルギーで1番楽しかったことは何？」と誰かに聞かれたら私は迷わず、「ホストファミリーと過ごした土曜日と日曜日です。」と答えます。もちろん皆で一緒に行ったデュルビュイやブリュージュをはじめとする様々な観光名所はとても美しく感動しました。写真を沢山撮ったり、短い自由時間は友達とお店に駆け込んだりとすごく楽しかったです。ただホストファミリーと過ごした土曜日と日曜日の思い出は格別でした。ベルギーへ行く前からずっと楽しみにしていた小便小僧を生でみたとき、本当に感動しました。ブリュッセルの街並みは右も左も前も後も上もきれいでベルギーという国はなんて素敵なのだろうと感じた瞬間でした。散々遊んだので日曜日の朝、9時に起きて出掛ける予定が寝坊して10時に起きたという話も今では1つの思い出となりました(笑)。日曜日の朝ご飯はスペシャルらしくてたくさん種類のパンがあってとても嬉しかったのを覚えています。その後ブリュッセルの王宮を見学したのですが、とても広く豪華で美しくこんな所に住みたいと思いました。この日、ペアの子と日本食のおにぎりを作り日本の茶道を体験してもらいました。ホストファミリーの皆がとても喜んでくれて嬉しかったです。茶道も楽しいと言ってくれて良かったです。FIESTALATINA 2018という祭にも連れていってもらったのですが、日本の祭のように屋台が沢山あったり会場の真ん中で格闘技が行われていたり踊っていたり、歌っていたりとすごく盛り上がっていて楽しかったです。夜の10時くらいからバーへ行ったことが実は1番印象に残っていて、人生で初のビリヤードをやったり少し大人になった気分でした。

紹介するのが遅れてしまったのですが、私のホストファミリーは3人家族プラス犬が1匹でした。英語が全然話せない家族だったのでコミュニケーションが上手にとれるか心配だったのですが、とてもフレンドリーに沢山話掛けてくれました。そのおかげで沢山コミュニケーションをとることが出来、色々な話をしたり聞いたり出来て良かったです。もう少し私がフランス語を勉強していけば良かったと後悔しています。

私は今回、「世界中の人と友達になりたい」とい

う思いからこの訪問団に参加しました。ベルギーでは自分のホストファミリーはもちろん他の人のホストファミリーの人とも仲良くなることが出来ました。私のホストファミリーのように明るく元気すぎる人もいれば、口数は少ないけれど優しいなど、同じベルギー人でも色々な人がいて、色々な性格の人と話せて良かったです。

言葉では言い表せないほど楽しかったし、自分の中で物の見方や考え方が変わり成長できたとも思いました。日本での常識とベルギーでの常識は全然違って驚かされる出来事も沢山ありました。それも1つの経験で、そんな貴重な経験が出来て、とても嬉しく思います。また、ホストファミリーに会えることを楽しみにしています。その時に、フランス語で会話できるように、今から勉強しようと思っています。

最後に、今までお世話になった長久手市の皆様、ワテルロー市の皆様、そしてホストファミリー、私たちを支えてくださり心から感謝しています。

「On vous aime♡」



ベルギーの訪問から得たこと

高等学校1年 飯田万喜



今回のワテルローへの訪問で一番印象に残っていることはワテルローの人々の温かさです。それはワテルロー市に着いてすぐ感じました。ワテルロー市役所でホストファミリーと対面した際、初めて会ったとは思えないくらいに気さくに話しかけてくれました。私はベルギー人と話すこと自体今まで経験がない上に、初対面の人と話すのが得意ではないため、ホストファミリーと対面する前はとても不安でした。しかし、そんな心配は全くいりませんでした。対面後、ホストファミリーの家に向う車の中でも、「疲れてない?」「飛行機では寝れた?」などと、とても私たちの体調を気遣ってくれました。1日目の夜はホストファミリーの家の庭にある小屋で、お互いの国の文化について紹介し合ったり、談笑したりして、ホストファミリーと仲を深めることができました。私たちを家族の一員として受け入れてくれたことが嬉しかったです。もう一つの家族ができたようでした。

ワテルローやブリュッセルの街並みも印象に残っています。ワテルロー市は街中に木々が多く、自然豊かで静かな住宅街という印象を受けました。一方、ブリュッセルは建造物やショップが多く、多くの人でにぎわっていました。3日目にホストファミリーとトゥクトゥクという乗り物に乗ってブリュッセル市内にある王宮やグランプラス、ベルギー王立美術館などを訪れました。どれも建物の壮大さに圧倒されました。王宮では期間限定で一般公開されており、中に入ることができました。王宮の中は壁が

金色に統一されており、シャンデリアや壁画など装飾もとても豪華で思わず息を呑みました。日本では味わうことのできないような空間や雰囲気に浸ることができて、感慨深かったです。日本とベルギー、それぞれ独自につくられた文化の違いを目で見て感じ取ることができました。

私がこの訪問団に参加しようと思ったのは、ベルギーの文化を知りたい、ベルギーの人々と交流をしたいと思ったからです。この望みは叶えることができました。しかし、課題も見つかりました。それは語学です。現地の方々とのコミュニケーションは英語がほとんどでした。自分の言いたいこと、伝えたいことを英語で上手く言い表せず、もどかしく思うことが何度もありました。もっと英語が話せていたら、ホストファミリーともより色々な話ができただろうんじゃないかと思うと悔しくてたまりません。このベルギーの訪問を通し、英語力を身につけようと思う気持ちが高まりました。ベルギーでの悔しかった経験が英語を勉強するモチベーションにつながっています。悔しかったことも楽しかったことも、これからの人生においてずっと大切にしていきたいです。

最後になりましたが、この訪問を運営してくださった団長、谷口先生、笹山さん、本当にありがとうございました。訪問団のみんな、最初は、まだ出会ったばかりのみんなとベルギーに行くことに不安を感じていたけど、みんながいたおかげで楽しい時間を過ごすことができました！本当にありがとう。



▶ 研修報告

1 班
内田・木村・瀧本・杉山

グループのメンバー
だけでなく団員全員で
過ごせた5日間は
最高の思い出



2 班

佐藤 領馬 新美 健太郎
小池 瑞紀 清澤 彩夏

歴史

<ブリュッセル王宮>

ブリュッセルにある最も美しい建物の一つです。
ここでは国家元首であるフィリップ国王が執務を行っています。
王宮は、夏季に一般に公開され、貴重な絵画やタペストリー、豪華なインテリア、
「鏡の間」などを鑑賞するために毎年多くの人が訪れます。

<古都ブリュージュ>

ブリュージュは中世に一大貿易地として栄えた町です。
赤レンガ作りの家が並ぶ町並みは「天井のない美術館」と言われるほど美しいです。

食文化

<ワッフル>

ベルギーの名物といえばワッフルです。パーティーでのデザートはワッフルがでてくるが多かったです。
日本のワッフルよりも甘くスイーツや生クリームをトッピングしてありました。

<チョコレート>

ベルギーには日本でも有名なGODIVAやLeonidasやPIERRE MARCOLINIなど
チョコレートの有名なお店がたくさんあります。
現地の人は主食のパンにチョコレートをぬって食べたり、小腹がすいたときに食べたりと生活に
欠かせない物となっていました。

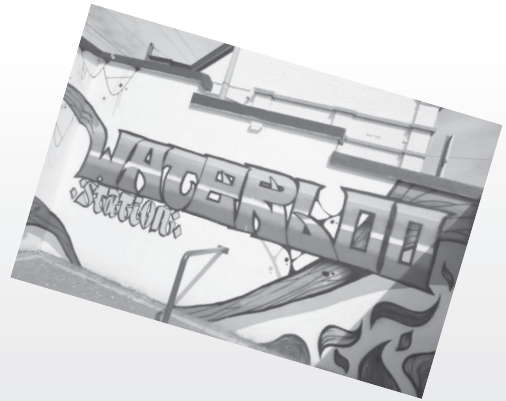


ワーテルロー市観光マップ

3班・土屋響・瀧日康太郎
川合佑佳・加藤優希

★ 3班はワーテルロー市の街並みや観光マップ作りでワーテルロー市の緑豊かな街並みやワーテルローの戦いの象徴のライオン像、ワーテルロー駅の様々な様子を紹介しました。また、ワーテルロー市の公園、有名チョコレート屋などから紹介しました。ワーテルロー駅はポップなイメージでデザインされていてとても印象的なイメージです。

ライオン像の丘は広大な牧場の真ん中にある自然豊かな古戦場であり、資料館には様々な資料が置いてあります。



4班

ファッション

- *ベルギーの人はあまりスカートを履かない！
- *家にジャンパーの数だけでも30着以上あった！
- *スクール水着みたいな服が売っていた！
- *日本のブランドのお店も多くあった！
- *ガウチョみたいな服はあまりなくスキニーみたいな服が多い！



学校生活

- #幼稚園から留年、飛び級制度がある。
- #制服がない。
- #中学と高校が一貫。(13歳から18歳の6年間)
- #学区はなく自由選択制。
- #12歳まで親が送迎の義務。



青山千寿・清水陽歌里・織間莉央・高橋はな

ベルギーの暮らし ～食文化・街並み～

5班 飯田万喜 三沢颯菜 舘沙也加 早川葉歌

～食生活～

朝はパンかシリアル。
レストランでは料理が出てくる前にフランスパン、食事の途中にはフライドポテトが必ずといっていいほど出てきた。ベルギー人は喜んで食べていたが、私たちは正直飽きてしまった。料理や本場のチョコレートはとても美味しかった！！



～街並み～

ワーターローは木々が多く自然豊かな街だった。
街ではジョギングしている人や自転車に乗っている人の姿をよく見かけた。街の中には貸し出し用の自転車置き場があってだれでも借りられるようになっていた。
人々が日ごろから健康に気をつけていることがわかった。



▶ホストファミリーとの交流の様子



ヴァンデルヴェン キャリオンジェラード ファミリー



ウェーバー ファミリー



ヴェレエン ファミリー



カッシュ=ナエ ファミリー



カレンス=ラハ ファミリー



コウェル=リトヴァン ファミリー



シェファーニ ファミリー



シューマッカー ファミリー



フィッツジェラルド=ニカイ ファミリー



ポリアコフ ファミリー

ヴァンデールヴェン キャリオンジェラード ファミリー

加藤 優希・早川 葉歌



↑家族の笑顔が私たちの不安
をうちけしてくれました。
あの日に戻りたい!!

→郵便地へ行きました！夕方
まで楽しみました。でも、
お昼が過ぎると、雨が降って
きて、とても寒かったです。
帰りの車の中ではみんな
疲れて寝ていました。唯一
元気だったのが、一番下
の子でした。



↑ファミリーと初めて町を歩きました！
楽しかったー!!



↑最後の夜、明日でお別れとは考えられ
なくて涙が自然と出てきました。



ウェーバー ファミリー

川合 佑佳・館 沙也加



対面式

笑顔で迎えて頂き私たちの不安
は吹き飛びました。とてもやさしく
て明るい家族です！

王宮に行きました！



ブリュッセル

グラン＝プラスや小便小僧にもつれ
て行って頂きとてもきれいな建物ば
かりで圧倒されました。観光客の人の
量がとても多くて驚きました。



BAR

夜10時ごろに連れて
行って頂き大人な空
間でした。
BARでは、ビリヤード
で遊びました。初体験
で、難しかったですが、
上手にできたときは、
とてもうれしかったです。



お別れパーティー

最後の日の夜ではさらに仲良
くなることができて、まだ帰りたく
ないと思うほどでした。



ヴェレエン ファミリー

小池 瑞紀・瀧本 鈴華



お別れパーティ
笑顔の1枚!!



みんなでムール貝をたべた!



夜の女子会♪



また会いましょう!!



カッシュ=ナエ ファミリー

青山 千寿・清水 陽歌里



みんなでアイスとワッフルを
食べました!



最後の涙のお別れ・・・。



ベルギーの王宮に
行きました!



ホストファミリーとお菓子パーティー!



ナミュールのシンボル☆



感謝の気持ちを込めて
和食作り~!

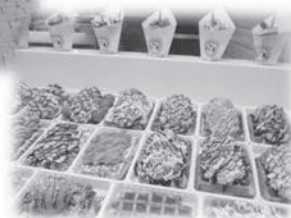
カレンス＝ラハ ファミリー

織間 莉央・杉山 ここ

ファミリーの一員
として楽しい思い出が
たくさんつくれました



ブリュッセル
にきました



ウェルカムパーティー!
日本の文化を知って
もらいました



コウエル＝リトヴァン ファミリー

飯田 万喜・高橋 はな



王宮にて



日本料理を披露



お別れパーティー



ブリュッセル巡り

シェファーニ ファミリー
木村 風歩・瀧日康太郎



お別れパーティー

ブリュッセルにて!



夜ごはん 超豪華!!



シューマッカー ファミリー
佐藤 領馬・新美 健太郎



WALiBi(遊園地)にて



atmiumをバックに一枚!



最後に記念の一枚



お別れパーティーにて

フィッツジェラルド＝ニカイ ファミリー

清澤 彩夏・三沢 颯菜



↑ホストファミリー



↑愛犬ブルー

↓小便小僧



←エマとスリーショット



ポリアコフ ファミリー

内田 康介・土屋 響



別れの直前、涙が出そうでした。



ポリアコフ家でとった思い出の写真、犬のオーナーはこの後すぐに姿を消す。



ウェルカムパーティで撮った写真、笑顔が素敵ないい家族でした。



最初の出会い、この後ともお世話になりました



さよならパーティでとった写真。楽しかった時間はすぐに過ぎてしまう

▶姉妹都市交流のあゆみ

1990 (H2)	10	・NHK とベルギー観光局日本事務所を通して、ワートルロー市と接触し打診 平成 3 年10月に長久手町で開催予定の「町制20周年記念事業―古戦場シンポジウム―」への参加を招請
1991 (H3)	2 5 10	・パトリック・ノートン駐日ベルギー大使を山田市造町長、三岡太議長が表敬訪問し、ワートルロー市との交流についての仲介を依頼 ・「町制20周年記念事業―長久手劇画フェア」にノートン駐日ベルギー大使が来町 ・山田市造町長、福田績議長を含む長久手町・ワートルロー市友好交流団員 6 名がワートルロー市を訪問、正式に交流を申し入れた ・「町制20周年記念事業―古戦場シンポジウム」に、ワートルロー市ローズ助役、ベッテンドルフ助役が参加。パトリック・ネイス駐日ベルギー総領事も来町
1992 (H4)	6 10	・加藤梅雄助役、青山清治議長を含む「長久手町・ワートルロー市姉妹都市交流協議使節団」 5 名がワートルロー市を訪問、事前協議 ・姉妹都市提携に調印 ワートルロー市から調印使節団としてセルジュ・キュブラ市長以下13名来町 ・長久手町内で、両市町共催で「ワートルロー展」を開催
1993 (H5)	4 6 7 10 11	・長久手町から、日本の石をワートルロー市 長久手プラザ公園に設置するため贈呈 ・ワートルロー音楽アカデミー学長 ルドヴィック・ドゥ・サン氏来町、「春の宵・桜リサイタル」公演 ・第 1 回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 山田市造 町長）23名渡欧 ・ワートルロー少年合唱団「レ・パストロー」36名来町 第 3 回長久手町国際交流音楽祭にて公演。町内で 2 泊 3 日のホームステイ ・姉妹都市提携 1 周年記念式典（長久手町中央図書館） パトリック・ネイス駐日ベルギー総領事来町、記念樹アカブナを植樹 ・ワートルロー市議会議員コレット、コピテール、ワラン氏ら 3 名が来町、南中学校訪問
1994 (H6)	4 8	・友愛橋渡り初め式に、ワートルロー市クルイゼン助役来町 ・第 2 回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 浅井静男 教育長）23名渡欧
1995 (H7)	6 10	・第 3 回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 山田市造 町長）47名渡欧 5 年毎に開催されるワートルロー古戦場記念イベント見学 ・オヴェルトベルト助役夫妻来町 世界公園フェスティバル・長久手公園シンポジウムに来賓として参加
1996 (H8)	8	・第 4 回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 川島勝 教育長）23名渡欧
1997 (H9)	6 7 12	・長久手町・ワートルロー市姉妹都市提携 5 周年記念事業 「仏像と面にみる日本」展覧会 ワートルロー市展示館、駐ベルギー日本大使館にて開催 ・ワートルロー市訪問団（団長 ローズ助役）20名来町、町内でホームステイ ・フランソワ・デュケルコープ・デグザルト駐日ベルギー総領事来町
1998 (H10)	6 7	・ヒュスタープ・デュルックス駐日ベルギー大使 来町 ・ワートルロー市 クルイゼン助役 フェリエ助役来町、文化の家オープニング式典に参加 ・第 5 回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 長坂ふじ子 教育長）23名渡欧 ・駐日ベルギー総領事フランソワ・デュケルコープ・デグザルト氏の招待で、訪問団出発前にベルギー総領事公邸（神戸市）での壮行会に出席
1999 (H11)	5	・ベルギーフェスティバル クリスティアン・ヴェルドンク駐日ベルギー大使館公使参事官 来町 ・ベルギーコミックス展 マリー・ヴェルドンク駐日ベルギー大使館公使参事官夫人 来町
2000 (H12)	8 9 11	・第 6 回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 加藤照彦 総務部長）23名渡欧 ・ワートルロー音楽アカデミー学長ルドヴィック・ドゥ・サン氏、第1回長久手オペラ声楽コンクール審査員として来町 ・ベルギーワロン地区政府代表団一行（セルジュ・キュブラ ベルギーワロン地区政府副首相・ワートルロー市長 団長）来日 町表敬訪問
2001 (H13)	6	・ベルギーフェスティバル

2002 (H14)	8 9 10 12	・第7回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 青山安宏 教育長）23名渡欧 ・ワテルロー音楽アカデミー学長ルドヴィック・ドゥ・サン氏、第2回長久手オペラ音楽コンクール審査員として来町 ・第8回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（姉妹都市提携10周年記念）（団長 加藤梅雄 町長）加藤武町議会副議長を含む23名 ワテルロー市を訪問、10周年を祝した確認書にサイン 桜の苗木を記念に植樹 ・ワテルロー市ベッテンドルフ助役、ローニー自治体事務局長 来町、福祉の家オープニング式典に参加
2003 (H15)	8	・ワテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 ベッテンドルフ助役）23名来町 町内でホームステイ
2004 (H16)	8 10	・第9回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 青山宏 民生部長）21名渡欧 ・万博半年前祭りに、駐日ベルギー大使来町、参加
2005 (H17)	3 4 6 8 10	・万博サテライト会場「長久手町・ワテルロー市共同館」開設 ・ベルギー王国スカラ合唱団が文化の家で公演、町内でホームステイ ・ワテルロー市国際博覧会訪問団（団長 ベッテンドルフ助役）21名来町、記念植樹 ・ベルギーウィークを文化の家で開催、ベルギーサミット in 長久手に駐日ベルギー大使参加 ・万博長久手会場で開催されたベルギー王国ナショナルデー公式行事にベルギー王国フィリップ皇太子殿下ご臨席、ベルギー王国政府関係者来日 ・シモネ フロン地域政府、研究、新技術、対外関係大臣来町、記念植樹 ・長久手町主催、ベルギー王国フィリップ皇太子殿下訪問歓迎会を開催、長久手町長がベルギー王国コマンドール章（レオポルド2世勲章）を授与、フィリップ皇太子殿下に長久手町特別名誉町民の称号を贈呈 ・ベルギー王国ロイヤルオーケストラ 文化の家にて演奏会 ・ベルギー王国ナショナルデーに協力 ・ワテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 ヴァンデルクルイゼン助役）25名来町 町内でホームステイ ・ローニー自治体事務局長来町 ・長久手町・ワテルロー市共同館協力へのお礼のため渡欧（加藤梅雄 町長）
2006 (H18)	8	・第10回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 青山安宏 教育長）23名渡欧
2007 (H19)	8	・ワテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 テュムレール助役）22名来町 町内でホームステイ
2008 (H20)	4 7 9	・ヨハン・マリクー駐日ベルギー大使夫妻、ながくて桜まつり視察、来町 ・第11回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 加藤具己 副町長）23名渡欧 ・姉妹都市提携15周年記念訪問団（団長 加藤梅雄 町長）渡欧
2010 (H22)	5 8	・日本ベルギー協会長久手町視察 ・第12回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 水野正志 教育文化部長）20名渡欧
2011 (H23)	3	・東日本大震災のお見舞いメッセージがワテルロー市より届く
2012 (H24)	1 7	・「長久手町から長久手市へ」市制施行 駐日ベルギー大使よりメッセージ ・ワテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 テュムレール助役）7名来市 市内でホームステイ
2013 (H25)	8	・第13回2013長久手市姉妹都市友好親善訪問団（団長 川本忠 教育部長）23名渡欧
2013 (H25)	10	・市長 ワテルロー市表敬訪問（欧州研修 市長、市長公室長、児玉剛、堤健二）
2014 (H26)	7	・ワテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 テュムレール助役）22名来市 市内でホームステイ
2015 (H27)	6	・ワテルローの戦い200年祭を記念し、市代表团及び市民訪問団を結成（団長 鈴木孝美 副市長）15名渡欧
2017 (H29)	8	・長久手市国際交流協会主催 姉妹都市交流25周年記念事業「ベルギーナイト」開催 来場者500名
2018 (H30)	3 8	・姉妹都市交流25周年記念ビデオレター撮影会実施 ・第14回2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団（団長 吉田弘美 くらし文化部危機管理監）23名渡欧

►Special Thanks

◇ワートルロー市

市関係者のみなさん

フローレンス・ロイテール市長



イヴ・ヴォンデ・クイゼン助役
セドリック・トゥムレル助役
フェルナン・フラバ長官
ソフィ・クチュリオー議員
レジーヌ・ヴァンデル・ギンストさん（秘書）

アラン・シュロッセル助役（姉妹都市担当）



ドミニク・フェリエジャンス助役
エティエンヌ・ヴェルダン助役
ペニナ・スードリー議員（観光担当）
ナタリー・トノン議員
ディエゴ・ライオス・センテノさん（市職員）



ホストファミリー

ヴァンデルヴェン キャリオンジェラード ファミリー

ウェーバー ファミリー

ヴェレエン ファミリー

カッシュ＝ナエ ファミリー

カレンス＝ラハ ファミリー

コウェル＝リトヴァン ファミリー

シェファーニ ファミリー

シューマッカー ファミリー

フィッツジェラルド＝ニカイ ファミリー

ポリアコフ ファミリー



他にも、カメラマンのパトリックさん、アルミホイルで作る「アルガミ」作家、お別れ会会場レストラン l'Amousoir の店長、楽隊の皆さんなどなど、ワートルロー市のたくさんの方々にお世話になりました！

◇同行通訳



船 田 良 邦 さん
(エスパース フランス)



◇事前講習講師

訪問団 OB ゲストスピーカー

磯 村 滯 奈 さん

(第13回'13長久手町姉妹都市友好親善訪問団員)

長谷川 千 佳 さん

(第13回'13長久手町姉妹都市友好親善訪問団員)



フランス語指導

太 田 梨理香 さん (愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 3年)

辻 杏 南 さん (愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 3年)

蓑 田 孝 史 さん (愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 3年)

工 藤 美 咲 さん (愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 4年)

宮 地 由 季 さん (愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 4年)

新 家 歩 さん (愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 4年)

ゴスラン・マチューさん (愛知県立大学 留学生)

ラグヨ・グウェナエルさん (愛知県立大学 留学生)



◇旅行業務

名古屋観光サービス株式会社 名古屋教育旅行支店

◇協力 (フランス語講師派遣、日本文化紹介支援、交流会開催、親善訪問団派遣ニュースレター発行)

長久手市国際交流協会

第14回 2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団報告書

2018年12月発行

編 集 第14回 2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団

発 行 長久手市

〒480－1196

愛知県長久手市岩作城の内60番地1

長久手市くらし文化部たつせがある課

TEL (0561)56－0641 FAX (0561)63－2100

E-mail : tatsuse@nagakute.aichi.jp

〈表紙〉ワータルロー市のシンボル「ライオンの丘」で

